

INSIDE



衆院本会議に内閣不信任案が上程された十二月十日、温暖化防止京都会議に出席していた竹下登元首相は、スピーチが終わると国会にとんぼ返りした。

議場最後列の席に着席すると、隣席の宮沢喜一元首相が「大蔵委員長村の上誠一郎クン、叔父(村上孝太郎元大蔵次官)も父(村上信二郎元衆院議員)も早くしてなつたのに、よく頑張ってますね」と話しかけてきた。内閣不信任案とセツトで衆院大蔵委員長不信任案も出ていたからだ。

本会議終了後、村上氏が自民党国対委員長室に行くと、竹下元首相が追いかけてきて懐から出した紙片を村上氏に渡した。

「地球環境問題へのチャレンジは長い長いリレーのようなものです。今生きているわれわれが全力を尽くし、次の世代へバトンを引き継いでいかなければなりません。」午前

中、京都で行ったスピーチ原稿だった。

「これは次世代の若者向けのスピーチ。命がけて頑張り、史上最年少で不信任案を突き付けられた君に受け取ってほしい」と言っ

てサインした。
「さすが、現場の苦勞をわかってくれている。おかげでハードワークで痛めていた村上氏の胃はすぐに治った。」

「それにひきかえ大蔵省は」と村上氏は言

「そのとき、今政治がやらないといけない

のは、①バブルを精算して金融不安を取り除くこと②バブルがゼネコン不況にきているので補正で財政出動すること③以上をワンセット同時並行で進め、来年四月に突入するビッグバンにも備えるスキームを作ること、と思っ

た。「計画的にビッグバンに備えないと、ワイルドのナポレオンのように戦う前に自滅する、対策を急げ」と再三再四言ったのに、財政構造改革法に固執し、手足を縛った」

「二〇〇三年までに財政赤字をな

くすなんて、閣議了解で済むのに、政権交代がこわくて法律にこだわり、ビッグバン対策の好機を逸した。今

ごろ、付け焼き刃のように梶山前官房長官の十兆円国債と総理の決断による二兆円減税が出てきたが不十分。今からでも遅くない。システムティックなビッグバン対策を」

「宮沢喜一蔵相、中曽根総務厅长官(行革担当)、竹下登幹事長に梶山国対委員長、大蔵委員長に税の神様、山中貞則元通産相くらいの布陣でないと、この危機も通常国会も乗り切れない」と叫ぶ。(田村玲子)

財政赤字に固執し過ぎて 金融不安に無策の大蔵省 村上委員長の怒りと叫び

う。次官も官房長も慰勞に來なかつたことを言っているのではない。「金融機関の体力が落ちて手足が壊疽(えそ)になっているのに、山一、拓銀、三洋証券が淹つばに落ちるまで何もしなかつた」ことだ。

村上氏は七月、「衆院欧米各国金融・税制調査議員団」(原田昇左右団長)の一員として、ロンドン、ニューヨーク、フランクフルトでビッグバン関連の視察をしてきた。

「そのとき、今政治がやらないといけないのは、①バブルを精算して金融不安を取り除くこと②バブルがゼネコン不況にきているので補正で財政出動すること③以上をワンセット同時並行で進め、来年四月に突入するビッグバンにも備えるスキームを作ること、と思っ